

不登校児童生徒への支援の取組状況調査の回答より（一部抜粋）

1	<p>ICTを活用して実際に取り組んでいる具体的な取組内容</p>
	<p>別室登校をしている児童と、在籍している学級とをWeb会議システムでつないで授業を行っている。別室から児童は自身のGIGA端末を用いてWeb会議システムに接続し、授業を聞きながらノートを取ったり、チャットやスタンプなどで担任の問いかけにも反応したりしている。</p>
	<p>課題・問題点・苦労している点等</p>
	<p>端末や回線の問題で、インターネットに接続できない部屋があったり、通信の質が低下し会話が途切れたりビデオが静止してしまったりすることがある。 また、接続に手間取り、授業が中断されたり、授業の開始が遅れたりすることがある。当該児童の登校時間も曖昧な為、規則的に対応しづらい。</p>
	<p>児童生徒の反応や保護者の反応、成果等</p>
<p>当該児童は、積極的にオンラインでの参加をしたがっている。保護者の方もポジティブに捉えてくれ、取組に協力的である。また、在籍学級の児童らは、Web会議システムであれど同じ授業と一緒に受けられることを非常に喜んでいる。休み時間にはホスト端末の近くに集まりコミュニケーションを図っている。</p>	
<p>先生方の反応・感想等</p>	
<p>GIGAスクール構想の推進により整備されたICT環境を活用しての不登校支援は非常に効果的で意義のあるものだと感じる。しかし、それを見ている学級の不登校傾向児童が同じように「自分も別室で授業がしたい」と言い出さないかが心配である。公共性のあるものにするべきか、特例として説明するべきかの判断が難しいと考える。</p>	
2	<p>ICTを活用して実際に取り組んでいる具体的な取組内容</p>
	<p>2年前まで不登校が続いていた6年の児童。学校に来て別室登校であり、交流学級とは別の教員が対応しているので、同じ進度、同じ内容では学習できていなかった。そこで、Web会議システムを使い、教室から校内遠隔学習を試みた。別室でその授業をGIGA端末を利用して参加している。他の教員が当該児童と同じ教室で対応しサポートを行っている。これにより精神的なストレスが減り、登校できるようになってきた。</p>
	<p>課題・問題点・苦労している点等</p>
	<p>電源ONでいつでも使えるようにするため、日々のメンテナンスに苦労をしている。</p>
	<p>児童生徒の反応や保護者の反応、成果等</p>
<p>抵抗なく交流学級と同じ内容を学習することができるので、良い方向に向かっている。保護者の反応もとてもよく、中学校でも続けてほしいという願いがある。</p>	

	<p>先生方の反応・感想等</p> <p>様々な研修会や講習会で、この事例の紹介をしている。同じ町内の学校にも同じ状況の子どもがおり、この方法を取り入れて学習に生かしている学校もある。</p> <p>他の教員もこの方法は、学びの保障になる取組なので、私たちもどんどん取り入れていきたいと話している。</p>
	<p>ICTを活用して実際に取り組んでいる具体的な取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病気で休みが続く児童について、ICTを活用した心のサポート的支援をしている。 ・Web会議システムを通して、担任とコミュニケーションを図っている。また、始業から下校まで、教室の様子を配信し、学級の雰囲気を感じてもらえるようにしている。 ・学級の児童が、画面の向こうにいる友達に話しかけたり、できた作品を見せたりして積極的に関わろうとしている。
	<p>課題・問題点・苦労している点等</p> <p>今後も、リモートによる教育支援を続けたいので、継続して家庭への貸し出しをお願いしたい。</p>
3	<p>児童生徒の反応や保護者の反応、成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の希望があり、本人の顔やマイクはOFFにしている。そのため、学級の友達や担任からの一方通行の配信であるが、当該児童は毎日の配信を楽しみにしているようである。 ・学級の児童たちも、配信が当たり前の日常になっており、気軽にあいさつをしたり話しかけたりしている。 ・9月から、学校における教育活動のWeb配信を始めているが、保護者や当該児童は大変喜んでいる。何より、当該児童の心のエネルギーが上がってきており「学校」に少しずつ興味をもち始めている。 ・9月下旬の運動会には、開会式から閉会式までリモート参加することができたことは、本人にとって大きな自信につながったと思う。
	<p>先生方の反応・感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任と休み時間や放課後に行う1対1でのWeb会議では、主に会話を通してやりとりをしており、当該児童にとって楽しみの一つになっているようである。その時間は、顔も声もONにしてやりとりをしている。当該児童が思いっきり笑い、楽しんでいる姿を見て保護者だけでなく、担任としても大変嬉しい。 ・複数の診断名がつき、外へ出ることもできない当該児童に対しては、大変有効な手段であり、大きな成果へつながっているように思う。
	<p>ICTを活用して実際に取り組んでいる具体的な取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童用タブレットのアラームを設定しておき、朝起きられるようにする。 ・時間割等の予定を伝える。 ・アプリを利用し、ビデオ通話で当該児童の状況・様子を確認する。
	<p>課題・問題点・苦労している点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを利用してコンタクトを試みても、児童側のタブレットで自由に受け入れが選択できるので、学校側からコミュニケーションをとれないこともある。 ・ビデオ通話アプリで表情を見ようとしても、映してもらえないときがある。
4	

児童生徒の反応や保護者の反応，成果等

- ・ 保護者は，教員から直接児童へコンタクトをとってもらえるので，ありがたいと思っており，学校とのつながりがあることで安心している。

先生方の反応・感想等

- ・ 児童本人と直接コミュニケーションをとることができ，当該児童の言いたいことや気持ちが教員に伝わりやすい。
- ・ 時間や手間をかけず，スピード感をもって次の対応につなぐことができる。
- ・ 心身の状態の把握などにつながるものとして効果があると感じている。

ICTを活用して実際に取り組んでいる具体的な取組内容

リモートでの授業参加

- ・ 保健室登校児に対して授業支援システムを使用して授業を受ける。
- ・ 児童側のカメラと音声はOFFにして，支援者がチャットで当該児童と関わる。「見えるか」「聞こえるか（聞き取れたか）」「発問に対する自分の考え」など。
- ・ 「授業を受ける」だけでなく，クラスの雰囲気も味わえるようにする。
- ・ 授業支援システムを使った学習のまとめ。
- ・ 「教室で授業を受けてもついていける，分かる」素地を培うことを目的とする。

Webドリル教材を使用した学習

- ・ 購入した市販ドリル類だけでなく，ICTを利用して基礎，基本の定着を図る。
- ・ 支援者や担任は，取り組んだ課題のデータを基に，今後の対応を検討する。

5

課題・問題点・苦労している点等

- ・ リモートによる授業支援を行える職員の確保
- ・ 「このままリモートによる学習活動でよい」と思われぬような手立て。（あくまで教室へ戻るための一時的な支援であることをどう理解してもらうか）
- ・ クラスの他の子どもたちの理解を，どう得るか。
- ・ ICT機器やソフト（アプリ）の効果的な活用についての教材研究の時間確保。（スキルの高い教職員の負担が増える傾向がある）

児童生徒の反応や保護者の反応，成果等

- ・ 学校を休むことがなくなった。（保健室登校）
- ・ 徐々に力と自信をつけて，教室で他の児童と一緒に活動する時間が増えた。
- ・ 保健室登校児のために考えたものを，他の児童の学習活動にも生かすことで，児童の学習意欲や能力が高まりつつある。

先生方の反応・感想等

- ・ 対応の状況を共通理解することで，他の学年の指導にも生かした。
- ・ 支援者として関わった教職員のICTスキルが高まった。
- ・ ICT関連の研修を積極的に取り入れるきっかけとなった。（年間計画以上に）
- ・ 他の教職員が作成したデータ等を共有しアレンジすることで，学習準備の時間短縮にもつながっている。

6	<p>ICTを活用して実際に取り組んでいる具体的な取組内容</p>
	<p>心のサポート的支援として <u>コミュニケーションツールのアンケート機能を使った毎日の健康調査により、毎日の健康調査とともに、不安なことや心配なことを記入させ、送信させることで、養護教諭へダイレクトに相談活動ができるようにしている。</u> 学びの支援として <u>Webドリル教材を使った学習を行わせたり、授業支援システムにより、学級における学習の状況をリアルタイムで確認させたりしている。</u> 今後の展望として コミュニケーションツールの様々な機能を教員が活用し、オンラインによる面接指導や学習状況の確認、課題の配布・回収ができるようになれば、良いと考えている。</p>
	<p>課題・問題点・苦労している点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携が重要である。 ・家庭での通信環境の整備。 ・端末の不具合に、即応できない。
	<p>児童生徒の反応や保護者の反応、成果等</p> <p>毎朝の健康調査が送信されており、家庭でも早起きをして健康的な生活をしている様子である。協力的な家庭においては、親子でドリル学習に取り組んでいるようである。</p>
	<p>先生方の反応・感想等</p> <p>本人からの毎日の健康調査等の送信により、電話連絡や家庭訪問を行うことなく生徒の状況を把握することができる。</p>
	7
<ul style="list-style-type: none"> ・別室登校をしている生徒に対して、Web会議システムを使って教室とつなぎ、授業を受けることができるようにしている。 ・不登校の生徒に対しても、本人の希望があれば家庭と教室をWeb会議システムでつないで授業を受けることができるようにしている。 	
<p>課題・問題点・苦労している点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の反応が見えないため、授業の展開が難しい。 ・Web会議システムを活用するには教室にもタブレットを置く必要があるため、不登校の生徒の意思確認が必要である。(他の生徒の目が気になる。) 	
<p>児童生徒の反応や保護者の反応、成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段、顔を合わせていない級友と一緒に授業を受けることで、教室の雰囲気を感じながら、楽しそうに授業を受ける様子が見られた。また、級友が不登校の生徒がいる部屋を訪れたり、数回であるが、実際に授業に入り、級友と一緒に授業を受けたりすることができた。 	
<p>先生方の反応・感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室に入るのはハードルが高いと感じている生徒にとっては、リモートによる学習活動への参加は教室に近づくための第1歩として有効ではないか。 ・級友に顔を見られたくないので、画像と音声をオフにして参加している。そのため、生徒の反応がわかりづらく、授業が一方通行になってしまう。 	

8	<p>ICTを活用して実際に取り組んでいる具体的な取組内容</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適応指導教室にて、文化祭の生中継や、学級旗紹介・パフォーマンスのビデオを、Web会議システムで生徒が見られるようにした。 ・ 生徒が、家庭や適応指導教室で、授業等に参加できるように、保護者の協力を得て、学習者用タブレット端末の使い方や家庭での接続方法等を説明、実施した。 ・ 特別支援学級の2年数学の授業を公開し、家庭や適応指導教室で、リモートで授業を受けられるようにしている。(週3時間) ・ 数学の授業の動画を、いつでも生徒が見て学習できるようにしている。
	<p>課題・問題点・苦労している点等</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ リモートの授業で使用する学習プリントを、事前に家庭に届ける必要がある。 ・ 授業時間の変更や、授業内容の変更等を、事前に伝える方法を工夫する。 ・ リモートで授業を受けている生徒の理解度がよくわからず、授業の展開に悩む。 ・ 全てのリモート授業に参加できないので、人によって学習の進度が違ってくる。
	<p>児童生徒の反応や保護者の反応、成果等</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化祭の様子を、事後に見られたことは、大変好評であった。 ・ リモート授業の最初は、緊張しながらも参加できていたが、だんだん授業に参加しなくなった生徒がいる。 	
<p>先生方の反応・感想等</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ リモートの授業が数学以外の教科でもできるようにしたい。 	
9	<p>ICTを活用して実際に取り組んでいる具体的な取組内容</p>
	<p>* 不登校の生徒はいないが、病気のためしばらく休んでいる生徒に対する支援を記述する。 【HR活動等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 朝の会及び帰りの会にオンラインで参加。対象生徒の背と同じくらいの高さを調整したスタンドにタブレット端末を装着し、いつもの立ち位置に設置する工夫をしている。始業前からクラスに設置し、級友とコミュニケーションを図る時間を設定している。教室移動時は、級友が声をかけながらスタンドを運んでくれている。 ・ 清掃の時間は、班活動で行っている。リーダーの生徒が、清掃場所にスタンドを運び、家庭で実施できる清掃(粘着カーペットクリーナーなど)を実施したあと、リーダーに終了の報告をする活動を行っている。 <p>【各教科等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽、美術、体育は、集団での授業にオンラインで参加。T2の教員が、個別に支援しながら、音楽に合わせたダンスや制作活動、ストレッチなどの活動に取り組んでいる。 ・ 国語、数学、職業、家庭科などは、集団と個別での授業を実施。事前にプリントや実習の教材を家庭に届けておき、オンラインで指導・支援しながら授業を進めている。
	<p>課題・問題点・苦労している点等</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 校舎外での活動においては、オンラインでの参加が難しい授業もあるので、ポケットWi-Fiなど校外の活動でも、端末がオンラインでつながる状況をつくる工夫が必要。 	

児童生徒の反応や保護者の反応，成果等

- ・遠隔教育においては，体調も安定して参加することができる。
- ・保護者は，学校に通えない状況にありながら，家庭で遠隔教育を受けることができることに大変喜んでいる。
- ・その日，その時間の体調に合わせて，授業への参加，不参加を選択できるので，安定した状況で授業を進められる。

先生方の反応・感想等

- ・家庭で活動しながらもタブレットをとおして，リアルタイムで生徒の様子を観察できるので，状況に合わせて指導を進めることができる。
- ・個別の対応においては，落ち着いた状況で活動に取り組むことができ，生徒に寄り添いながら指導を進めることができる。
- ・病気で休みが続く生徒に対する支援において，オンライン学習は欠かせない手段であり，今後も工夫しながら続け，授業のノウハウを構築していきたい。